



水の思い出 ⑤①

フォンス創刊号は2000年6月26日に発刊された。表紙には鹿島神社の末社で巖島神社と称される不動尊の泉【通称「弁天様」と地元の人は呼んでいる】が掲載された。その泉は今日になっても静寂を保ちモレモレと砂を噴き上げ沢山の水が流れ出ている。この池は大森町と真弓町の境に位置する北谷津の水田約25ヘクタールを潤す用水池として作ったと考えられるが、鹿島神社への御手洗い場として作ったという説もあり、この地区を御手洗(ミタラシ)と呼んでいる。また昔からこの泉は、「水木町の泉が森」「東海村の阿漕が浦あこぎ」に水系がつながっていると言い伝えられ、「阿漕が浦」に杵を投げ入れたら「弁天様」と「泉が森」より水が吹き出たという伝説もある。

この弁天様には沢山の思い出がある。真夏にはこの神聖な池でよく水浴びに興じていた。非常に水が冷たくて長く入っていられず、すぐ外に出て光を浴びた。池の中央には大きな石がありその石の下には若干の隙間があり、潜水泳法で潜り抜けては得意げになったりしたものだ。

この池には鰻が住んでいる。従妹がよくひきつけを起し、鰻の油が良薬とのことで夜になると親父と一緒に池に行き「クグシ釣り」をして釣上げては持って帰り飲ませた記憶がよみがえる。

またこの池の下流「しいだ川」には、フナ、ハヤ、カジカ、コイ、ウナギやモズクガニなどが棲んでおり、息を秘そめてそうっと石の下に手を差し延べつかまえたりもした。その下流に堰があり、その堰堤の上を「カヤッコ」(鰻の稚魚)が列をなして遡上して行く姿を何度も見かけたことがある。当時一緒に遊んでいた子どもたちはみんな目撃していたようだ。現在では考えられない貴重な体験だった。

自然に恵まれた良き時代に育った私としては、この素晴らしさを誰かに伝えたい。昔の自然環境がよみがえって欲しいと「弁天様」に祈りつつ筆を置きます。
(高橋靖浩)

創刊号表紙の近郊めぐり

創刊号表紙に掲載された弁天様付近、真弓と大森町を走っている県道156号線沿いの古道と歴史・文化・伝説の一部をご紹介します。
(高橋 靖浩)



A 安養寺妙観堂跡(東真弓集会所の地)



応永元年頃(1395)水戸の六地藏寺の分院として現在の地に建立され、唐獅子牡丹を台座とした木製の仏像が鎮座している。また昔十九念仏などを唱えた時使用した如意輪観音の掛け軸等が収納されており近くに十九夜塔、二十三夜塔が建てられている。

B 旧塩街道

塩浜(現在の河原子)で作られた塩を運ぶのに通った道。
塩浜→大窪→石名坂→真弓→岡田→太田塩横丁へ搬送されたと言われている。



G 庚申塔

庚申信仰は日待ちの一つ。60日ごとに巡ってくる庚申の日は眠らず過ごすことになっており、宿を決めて集まり過ごすという風習があった。



C 道しるべ・馬頭観音塔



旧塩街道の道標がある。(太田方面より、小目・岡田町方面→大甕・久慈町方面、大橋方面と刻んである)その横には農耕馬の供養塔も建てられている。

D 田楽場内と田楽場内原

「花園山縁起」によると「東金山・西金山・真弓山三社は磯出四月八日、水木浜に御幸行なり」とある。現在の小字田楽場内と田楽場内原で大祭礼の御休場となり、神事、田楽舞が執行されていたという。



E 乱闘場・戦闘塚

天狗党と諸生党の戦いがあった地。犠牲になった人を埋葬した塚もある。



F 馬力神

田楽場内原で草競馬を行った馬の供養塔。

H 弁天様



フォonz創刊号の表紙に掲載されている泉と鹿島神社の末社で巖島神社と鳥居。詳細は本書表紙参照。

I 鹿島神社

日本武神棟梁武甕槌命祭祀、養和元年(1181)源頼朝公が瀬谷郷の地を鹿島神宮へ寄進し、神宮から瀬谷権禰宣が来て神勤し、立派な社殿を造営したという瀬谷鹿島神社。

ちなみに瀬谷郷とは、手綱(丹奈)村、大森村、瀬谷村、真弓村、亀作村、高貴村、長谷村、田渡村、白羽村の九ヶ村である。



J 鹿島神社の椎

神社鳥居の入り口にある椎の木(スダジイ)は市指定天然記念物に指定されている。根回りは11.8m、推定樹齢は440年。



L 不動尊の泉

大森町字山根に不動尊の泉が湧き出ている。この泉の水系は創刊号表紙の泉弁天様と同系と言われている。水門、丹奈地区水田の用水として使用していた。



K 不動尊と十王

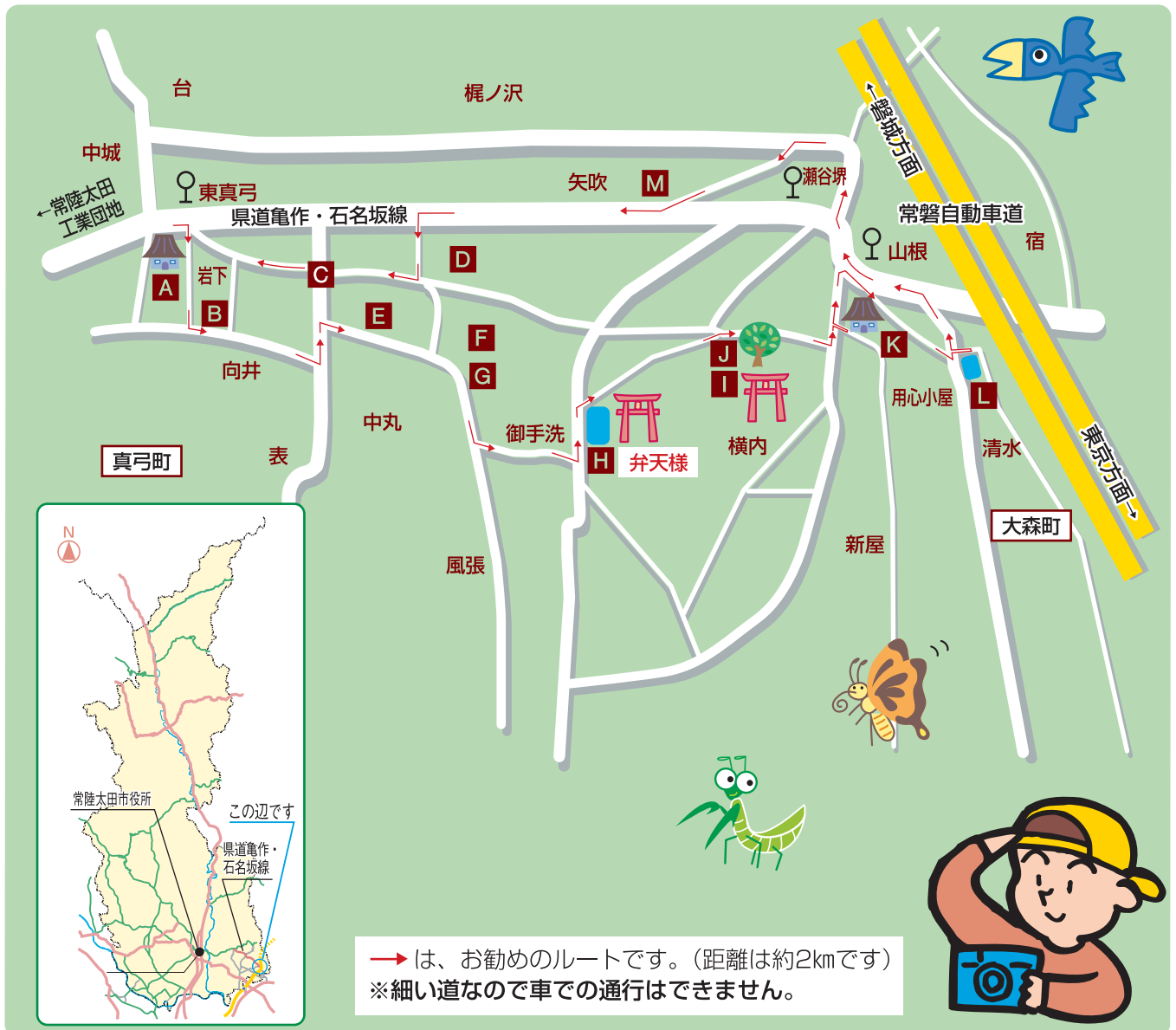
安政5年(1858)に奉納された木製の不動明王像が鎮座しており、十王の掛け軸が収納されている。

毎年8月の虫干しの時に、不動尊の内部を一般公開している。



M 高橋塾「強盛堂」跡

天保13年(1842)真弓村と瀬谷村が合併し真弓村となった。旧藩時代真弓村庄屋の家督を継いだ高橋義房、信一親子で明治5年(1872)の学制発布以後私塾を開校し漢学を教えていた。石垣の塾跡がある。



フォンスの表紙を飾った場所巡り

—創刊号から50号まで—

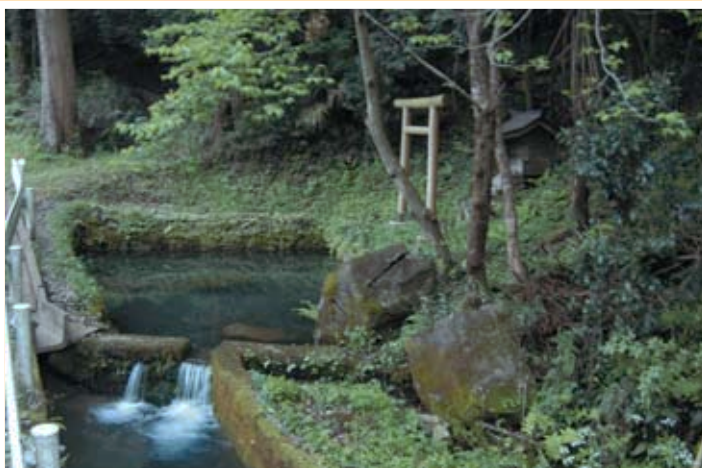
フォンスも創刊号から数えて51回の発行を迎えることとなりました。これも読者の方々のあたたかいご声援や励まし、時にいただくお叱りのおかげと感謝申し上げます。

毎回、反響の多いのが表紙の場所です。時には、「ここへ行きたいのですが場所を教えてください」等の問い合わせが多く寄せられることもあります。今回、創刊号から50号まで、問い合わせの多かった現在の場所の写真をご紹介いたします。フォンスの表紙を飾った場所を訪れてはいかがでしょうか。

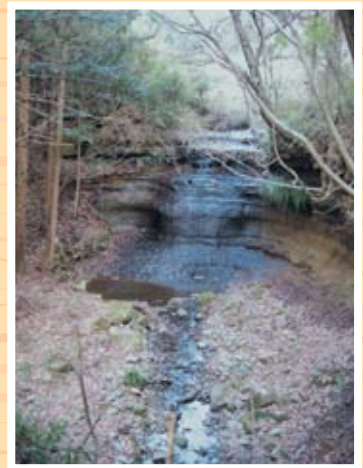
今回写真をご紹介できなかった号については、常陸太田市生涯学習センターのホームページ内でご覧いただくことができます。

No.	表紙の写真
創刊号	大森町 鹿島神社不動尊の泉
2号	池に咲くヒツジグサ(スイレン科)/高鈴県立自然公園
3号	長谷溪流の滝
4号	町屋町黒磯を流れる里川
5号	雪の不老池
6号	早苗そよぐ棚田 茅根町
7号	水と遊ぶ(里川)
8号	源氏川
9号	秋の里野宮堰
10号	春友町「大沢の滝」
11号	春友の滝
12号	栗原池と太公望
13号	里川はやまめの宝庫
14号	防人の歌碑(幸久橋から見える夕日)
15号	水木浜の朝日
16号	源氏川とシラサギ
17号	里川のはじまり
18号	源氏川
19号	里川と町屋変電所跡
20号	木崎二町の「ヨマチ」通り
21号	彼岸花と収穫を終えた棚田(白羽町)
22号	東橋付近の源氏川
23号	山紫水明ノ仙境美「亀ヶ淵」
24号	水田に写る常陸太田市総合福祉会館
25号	「たんけん 天下野町」

No.	表紙の写真
26号	安亀ヶ滝(あんりゅうがたき)
27号	プラトー里美
28号	竜神大吊橋
29号	西山の里 桃源 花菖蒲
30号	北沢から高鈴山へ
31号	落ち葉流れる
32号	天下野町 道城井戸
33号	幸久橋から見える朝日
34号	薄葉沢の笠石の滝
35号	常陸太田市駅南第二児童公園(通称たこ公園?)
36号	名のない滝(水府細崎地区)
37号	里川(赤レンガと銀杏まつり)
38号	アンブレラ(小菅町冷水場)
39号	パルティエの銀杏
40号	休耕田の増えてきた谷津田(町屋町)
41号	2007太田まつりフォトコンテスト特選「輝祭」
42号	上高倉町 山田川
43号	里川町 岡見
44号	栗原の溜め池
45号	小菅町冷水場のポピー
46号	久慈の杜100km徒歩の旅から
47号	上深萩町 細田西
48号	上宮河内町 蜂巢
49号	鍋足山の「中ん滝」
50号	水府国安町(山入城跡)



■ 創刊号「大森町 鹿島神社不動尊の泉」



■ 10号「春友町大沢の滝」

※呼び名が違っていることが解りました。詳しくは表紙文章を参照してください。



■ 23号「山紫水明ノ仙境美亀ヶ淵」



■ 26号「安亀ヶ滝(あんりゅうがたき)」



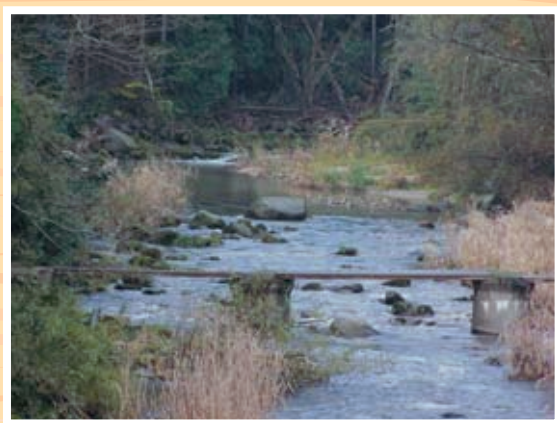
■ 32号「天下野町 道城井戸」



■ 34号「薄葉沢の笠石の滝」



■ 43号「里川町 岡見」



■ 38号「アンブレラ」(小菅町冷水場)

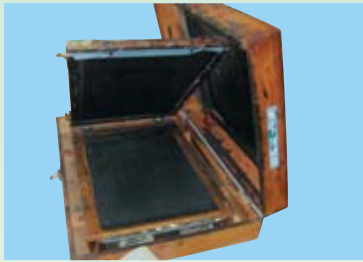
時を駆け抜けた人たち③



くさま 草間 京平
きょうへい

■埋もれていた郷土出身者

今は昔、学校のテストなどでおなじみだった「ガリ版印刷」をご存じでしょうか。インクのおいや鉄筆のガリガリという感触まで懐かしく思い出される人も多いかもしれません。その謄写印刷の分野の基礎を築き神様とまで称された人が里美村出身者だったことがわかったのはつい10年ほど前のことでした。



■「草間京平伝」の誕生まで

梅津会館などで今でも手に入れることのできる小冊子「草間京平伝」には、草間京平という人物をふとしたことから知った里美村の人々が郷土出身者の足跡を尋ねる過程がドキュメンタリードラマのように描かれています。

古書に興味を持っていた村の文化財審議会委員の吉成英文さんがある月刊誌の中に「里美村」の文字を見つけたのは平成9年4月。「印刷文化の底辺を飾った」と

して草間京平が紹介されていました。吉成さんですら初めて知る名前。草間京平とその月刊誌への寄稿文執筆者を求めて人捜しが始まりました。

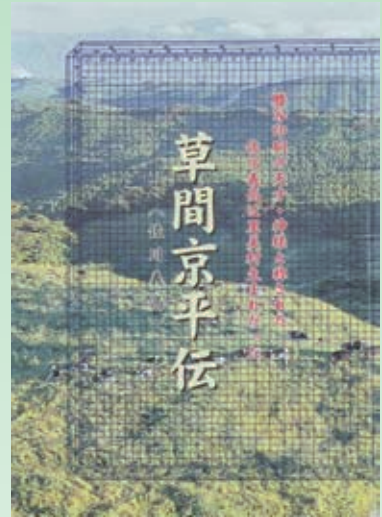
■情報は発信者に集まる

村内から断片的な情報が集まりかけていた同じ年の8月、市民のお宝を鑑定するというテレビ番組で草間京平のことが放映されたことがわかりました。「幻の逸品」として草間京平作童話絵本をさがしてテレビ出演していた後藤卓也さんとは翌年出会い、また同6月には月刊誌の寄稿者・小針美男さんから10000字に及ぶ草間京平の功績や生い立ちから晩年まで記した原稿が届きました。偶然の重なりのように見えるできごとですが、情報は求めているという発信と情熱のあるところこそ集まると教えてくれているようです。

■謄写印刷の美しさ

冊子の中には草間氏の直筆手紙の写真もあり、マス目のある紙に書かれた文字は、文字を書き慣れた文豪の手のような温かみを感じさせる文字です。

また、手書き・手刷りとは思



えないような「古明朝印刷」などはレトロ浪漫調で、新しさを感じさせ見とれるほどです。草間京平伝に収録されている作品は驚くばかりの美しいカラー作品も多く、「ガリ版」という言葉の表すイメージを遙かに超えたものばかりです。

この冊子に現されている驚きのドキュメンタリーは、地道な文化財調査活動によるもので携わった方々の情熱に敬意を表したい思いでいっぱいです。冊子発行までの顛末を書いた95ページをまず読み、全体の流れをつかんでから読み始めることをおすすめします。

(塩原慶子)

生涯学習情報誌「フォズ」は、2~3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌

平成22年9月から平成23年4月までに発行予定の
生涯学習情報誌「フォズ」第52号から第55号

◆広告料(1回あたり)※会長が指定するページの最下段

- ① 縦4.5cm×横 8.8cm/10,000円
- ② 縦4.5cm×横17.9cm/20,000円

問合せ

フォズ・ネットワーク事務局
(生涯学習センター内)

TEL:0294-72-8888

URL:<http://edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu/>

百姓田ちゃんの
たべもの日誌⑧



『かぶりつき茄子の味』

夏の野菜畑。春に植えた苗が気温の上昇と共にぐんぐん育ち、たわわに実をつける。トマト・ナス・ピーマンなど、気温の高い日は一晩で実が大きくなり、収穫する人を慌てさせる。そして、成長するのも早い、その分味が落ちるのも早い。夏野菜はとりたてをガブリ！が一番のごちそうだ。夏野菜の繊細な甘み・味は、その野菜の生命の結晶。収穫され切り離された瞬間から、その味は力を失ってゆく。

夫はよく畑を見学に来た人にナスの畑を案内し、枝になったままのナスの実に、腰をかがめてかぶりつくことを勧める。キュウリならまだしも、ナスを生で！？と怪訝な顔の客人も、ガブリとしたとたん「甘い！」と驚く。アクも全く感じられずまるで梨のよう、といった感想も聞かれる。

そのもぎたての味をできるだけ生かした調理法で、大好きなのがナスの浅漬け。漬物というより、採ってから調理するまでの時間が勝負の茄子のお刺し身のようなひと品。まずはナスを斜め3mm程の薄切りにし、なめると少しからい位の塩水に15分ほど浸けて置く。そして塩水から取り出し、そつと両手で軽くしぼり、器に盛るだけ。あとはお好みで、ミョウガや青唐辛子を刻んでちらしたり、しその実を入れたり。

味わってみれば「地産地消」という言葉の意義がより実感をもって感じられるだろう。「口福」という言葉は、食べることを通して人が豊かに、幸せになってゆくことをいうそう。旬のものの美味しさが、身近な人と畑のつながりを作ってくれることを願っている。

(木の里農園 布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス 50

独身の頃お世話になった看護師長さんが定年を迎えられ、先日わざわざばかりのお祝いを送りました。ほどなくお電話をいただき昔話とお互いの近況を伝え合い懐かしい時を思い出していました。

その中で、「ずいぶん良くしてもらったのに、看護観が合わない」と反抗もしました。今思い返すと看護師長さんの言っていたことがよく分かりました」と告げると「それでいいのよ」との答え。「若かったあなたは、あの後結婚をしたし子どもも産んで育てたし、多くの患者さんと出会ってその中から今の看護観を見つけたでしょう。そういう日が来ると信じてました。あなたのお子さんが年頃になってあなたに反抗したとき、お母さんであるあなたは、いつか経験を積んだ我が子にも今の自分を理解できる時が来ると信じているでしょう？」いやいや、まだそこまで達観できずにいますが、スマレと話している時、まだ若いから仕方がない、この子が親になったとき初めてわかるだろうと思うことは増えました。ただし舌打ちもつきますが…。

この子と出会えて良かったと改めて思い、子ども達の若さが、この先成長するための大切な瞬間であることを祈りました。私の年になっても成長できるのだから、しっかり目を見開いて歩いていけば子ども達の道は平坦でなくても明るい世界につながっているでしょう。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

いい事は昨日のことでも憶えてます!!



リレー
エッセイ 「思い出の絵本」 『ゴッホの絵本
うずまきぐるぐる』

～50～
(藤田町 小川 久美)

私が学生の頃、美術の講義で有名画家の作品を模写するという課題が出ました。以前から、フィンセント・ファン・ゴッホや彼の作品に興味があったこともあり、ゴッホの画集や文献を探していたところこの絵本に出会いました。

この絵本は、ゴッホの作品のとなりに、絵本の作者がその絵画について、詩のような表現で説明してくれています。

ゴッホの有名な作品の一つである「ひまわり」という絵画が絵本の中に取り上げられています。ゴッホは友だちが自分の家に来ることを楽しみにしていて、その時の様々な気持ちや思いをひまわりの花一本一本で表現していることが、絵本の作者の言葉によって鮮明に伝わってきます。ゴッホの作品を見る時の視点や作品に込められた思いが、絵本の作者の言葉での表現が添えられたことにより、絵画を分かりやすく、深く味わうことができます。

美術を鑑賞するという事は、私にとって、難しく、ハードルの高いことでした。この絵本に出会い、作品に込められた思いや、その時の画家の気持ちを身近に感じ、より深く味わうことができました。又、芸術という分野での作品を鑑賞する時の向かい方や接し方を教えてくれました。

そして今、私の娘達にもこの絵本を通してゴッホの作品のすばらしさを感じて欲しいと思っています。

(次回は 上深萩町 興野 千賀子さん)



鹿島神社の白蛇伝説

この話は久慈郡瀬谷村大字大森字横内集落の鹿島神社に伝わる話です。

その年は非常に暑い夏でした。おばあさんは毎年神社の社務所に来ており中に入り服を着替えようとして行李を空けたらびっくり。「白蛇がとぐる巻いている、なんとかしておくれ～！」と大声を出して五郎さん呼びに行きました。

五郎さんは早速駆けつけて白蛇を殺して捨てました。おばあさんは安心して家へ帰りました。

それから何日かたったある日、五郎さんの奥さんがおばあさんのところへやって来て「家の人が急に変なのだ」と言いました。五郎さんの家へ急ぎ歩いていると空が一転にわかにな真っ黒になり雨がざあざあ降ってきました。やっとなのおもいで家に着き、その夜二人は寝ずに看病しましたがよくなりず、とうとう五郎さんは亡くなってしまいました。

世間の人「あの白蛇は鹿島神社のお使い蛇で、白蛇様の祟りじゃ！」と言うようになりました。そこでこれはこの祈禱せねばならぬと昭和二十四年夏、鹿島神社の末社（御手洗池／通称弁天様）に白蛇の絵馬を奉納しご祈禱したそうです。

現在は鹿島神社と称しています。

その後は、病気になる人も無く平穏無事に過ごされているとの事でした。

白蛇は弁天の使いとして富をもたらすものとして有名ですが、水神様としても有名です。

※2頁の参考



ちよつとひといき
番外編 「HANA LE'A(ハナ・レア)」

ハワイアンアプリアックとパウスカートのお店



市役所分庁舎隣りに引っ越してきたばかりの、これから季節にピッタリなお店を紹介します。

表から見て、いったい何のお店かな？と思っても、中に入れば、常陸太田市だということを忘れるくらいに、ハワイアン!! スカートやバッグ、小物類を眺めているだけで、南国気分にあふれます。

華やかな色彩でありながら、年齢に関係なく似合う、バッグや小物類などは、チョット気分を変えたいときや、贈り物などにもいいかもしれません。とくにフラダンスの練習のときに持ち歩く、「レッスンバッグ」はフラダンスに興味がない方でも、お買い物の時などに使いたくなるような、鮮やかな色使いが魅力的です。色々な物を置く「雑貨屋さん」も楽しいものですが、お店全体が1つのテーマに彩られているのは、とても心地いいものだと感じました。

(武藤邦宏)

パウスカート(オーダー)
6,800円

レッスンバッグ(M)
6,500円

常陸太田市金井町3676 (市役所分庁舎となり)

営業時間 AM10:00～PM6:00 日曜定休日

お詫びと訂正 前号(50号)8ページ下段右側の道標の説明文で「瑞龍町 此れに従えの道標」と掲載しましたが、正しくは「瑞龍町 此れ従りの道標」の誤りでしたので、お詫びをし訂正いたします。